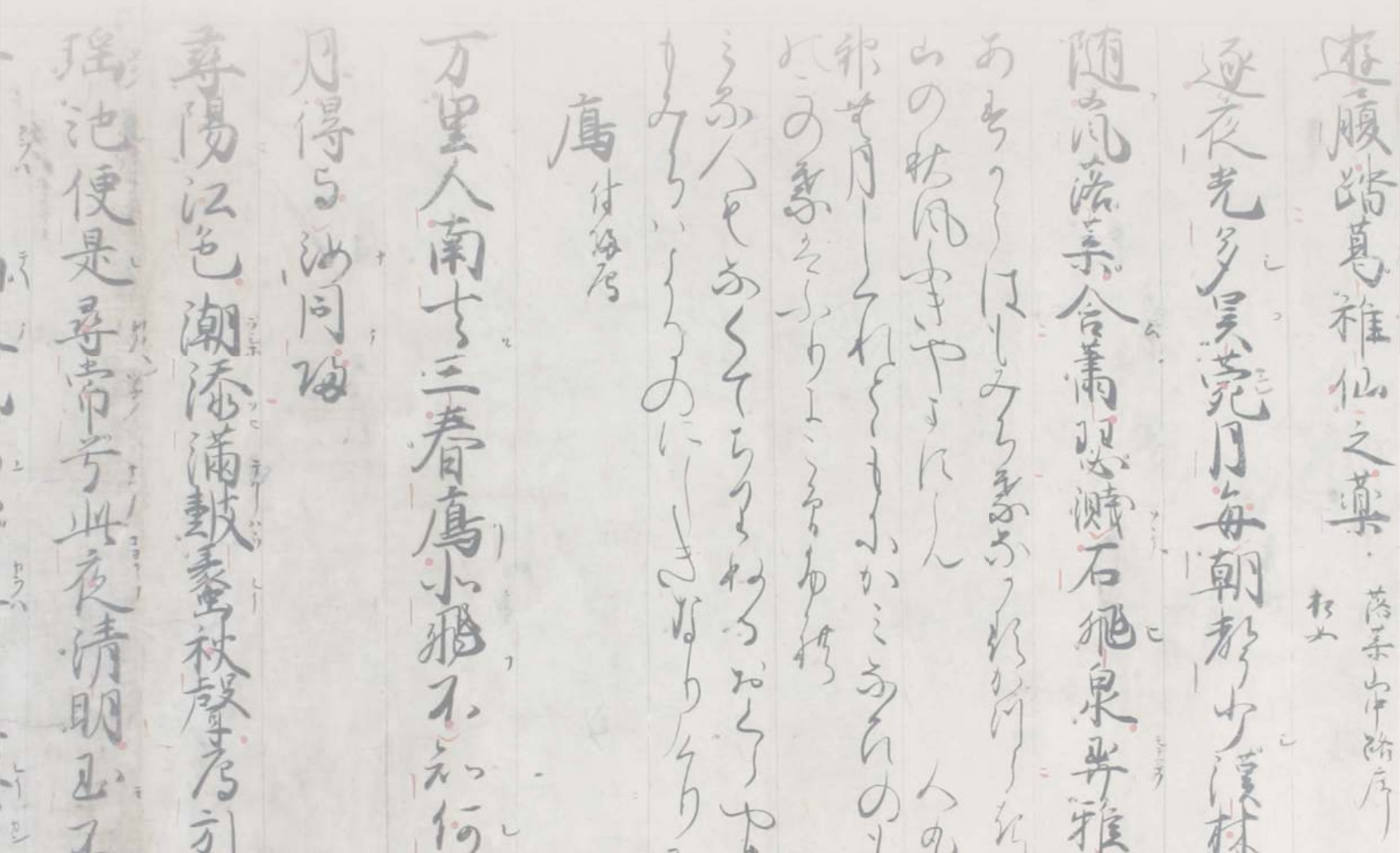




東京大学文学部

Department of Japanese Linguistics
Faculty of Letters, The University of Tokyo

国語研究室の御案内



逐夜光多冥亮月每朝都少漢林

落葉山中踏序
秋女

逐夜光多冥亮月每朝都少漢林

随流落系合清忍濺石飛泉并雅

あきつはしむらあふつはけしを
山の秋風あやふれん
人の

秋月しづれをふかきあふのり
あのみまをふりよこるあけ

あふ人もあきてらるるあふら
あふらあふらあふらあふら

鷹
付海唇

万里人南去三春鷹小飛不知何

月得与沙同海

尋陽江色潮添滿鼓蠶杖聲為前

瑶池便是尋常兮此夜清明玉不

ごあいさつ

この度は、文学部進学ガイダンスにお越しいただき、ありがとうございました。

この冊子は、国語学専修所属の学部学生が編纂を行い、学生目線から国語研究室の紹介をしております。進学先の検討の一助となれば幸いです。

一人でも多くの学生が国語学に関心を持ち、また進学先として国語学専修課程を選んで下さることを、国語研究室員一同心よりお待ちしております。

目次

国語学・研究室について	1
先生・演習紹介	2
授業紹介	3
時間割例	4-5
就活について	6-7
Q&A	8-9

画像

表紙：研究室から望む育徳園/和漢朗詠集写本(国語研究室所蔵)

目次：研究室内書架

裏表紙：研究室入口/研究室内演習スペース/外から見た研究室

国語学について・研究室について

国語学とは？



短く言うと、国語、すなわち日本語について考える学問です。

「日本語」と一言と言っても、その扱う領域はとても広く、授業の内容も多種多様。たとえば、今年度の授業内容を見てみると

- ▼国語学研究の概説
 - ▼日本語音韻史
 - ▼ノダ文と形式名詞述語文
 - ▼日本語諸方言の終助詞
 - ▼現代日本語の親族語彙
 - ▼古写本を用いた日本語史研究
 - ▼方言から見る日本社会
 - ▼日本語の表記史とアクセント
 - ▼日本語文法史
- などなど。

私たちの身近にある「日本語」に関する全ての「疑問」が、「国語学」の対象になるのです。

日本語日本文学(国語学)では、3人の先生方がそれぞれの研究成果に基づいて授業を展開されており、またさらに他大学の先生も講師としてお招きしており、多くの先生方のもとで、幅広く「国語学」を学ぶことができます。

研究室とは？

我が国語研究室は、法文2号館3階の角部屋にあります。歴史を感じさせる建物で、部屋には、壁をびっしりと埋め尽くすたくさんの本。学生が使えるパソコンもあって、勉強の環境は整っています。

研究室には事務補佐員さんがいらっしゃって、蔵書の配架場所を訊くと即座に教えて下さったり、その他学校生活における諸々のお手伝いをして下さったりします。

また、今期より助教として、中澤光平さんが着任され、週に3日研究室にいらっしゃいます。現代諸方言の音声・音韻、特にアクセントがご専門であり、教授陣の専門をカバーして下さるとともに、緊張してしまって先生方になかなか質問できなくても、私たち学生に寄り添って親切に答えて下さいます。

研究室に入るのは、最初はちょっとだけ緊張しますが、特に用がなくて「何となく来てみた」でもかまいません。早く研究室に慣れるためにも、ぜひ気軽に足を運んでみてください。

このように、アットホームな雰囲気とアカデミックな環境を併せ持つ国語研究室ですが、いいところはまだまだあります。例えば、学生数は少なすぎず多すぎず、程よい人数です。仲良くなりやすいですし、また学生数に対して先生の数が多いので、卒論などについて手厚く指導を受けることができます。



先生・演習紹介

現在、国語学の研究室には3名の先生がいらっしゃいます。

井島正博(いじま まさひろ)教授



国語研究室の主任です。専門は日本語学、なかでも文法論や語用論など理論的研究を専攻していらっしゃいます。講義では、引用表現・ノダ文・副助詞・時制表現といった「日本語の文法」として意識しやすいものについて、深いお話をしてくださいます。また九州出身でいらっしゃることもあり、とてもお酒がお好きなので、私たち学生を飲み会に誘ってくださることもあります。学生の研究に関しても、いつも優しい口調で丁寧なアドバイスをくださり、とても親しみやすい先生です。

●演習『複合辞研究』現代日本語の複合辞(ところ+で=トコロデのように複合することで意味に変化が起こる表現)について、文法的に構造と特徴を分析していきます。また、研究を進める上で必要な、データ収集の仕方、問題設定の方法、結論の導き方など、卒業論文をまとめるにあたってのノウハウを身につけることを副次的な目標とします。

肥爪周二(ひづめ しゅうじ)教授



音韻史および音韻研究史をご専門とされています。漢字音や梵語音も含めた総合的な日本語音韻史を研究され、通説とされていることでもその根拠を歴史的に遡って確認するというのを大切にしておられます。研究を長く続けていくことが目標なのだそうで、学生にも、自分で自分の限界を決めずにあらゆることに興味を持って挑戦してほしいとのこと。ドライブがお好きで、遠くで開催される学会にも車で行かれます。全国各地の国宝・史跡を巡るといふ文化的なご趣味もお持ちです。

●演習『古代語彙研究』古語辞典の基本的な成り立ちを理解した上で、古語辞典の項目を執筆する立場に立って、古典日本語を分析する技術を身につけることを目指します。単に既存の古語辞典を比較・論評するというのではなく、用例の収集・吟味、意味分類の検討をする方法を学習します。

小西いずみ(こにし いずみ)准教授



日本語の方言の研究がご専門で、文法を中心に、音韻や語彙も含めた各地方言の記述的研究・言語地理学的研究をなさっています。臨地調査で得た言語事実にもとづく記述を心がけ、拙速な一般化・理論化を戒めながらも、その言語事実が言語一般のありかたから見てどのように捉えられるかも考えようとしていらっしゃいます。方言という研究対象の性質に関して、社会言語学や方言資料の整備・保存にも関心を広げておられます。街歩きと銭湯巡りが趣味で、以前に住んでいた広島市では市内全ての銭湯に行ったそうです。

●演習『日本語方言の記述・対照』各地域方言も含む日本語の話し言葉について、各自が研究課題を設定し、コーパスを用いた調査結果を発表、参加者で議論します。用いる資料の特性に注意しながら語彙・文法の地理的・社会的変異を分析することで、日本語方言研究や社会言語学的研究の方法を学びます。

また、国語学では駒場の教養学部や他大学の先生方による講義も開講されています。

今年度、当専修課程では17個の授業が開講されています。

授業紹介

単位としては、隣接分野である国文学や言語学の講義も含めて、卒業までに 76 単位が必要となります。

① 国語学概論

「国語学」という学問全体を眺め、様々な問題を幅広く紹介するのが概論。必修で、出席重視。期末試験での評価です。先生方持ち回りの講義で、Sセメスター、Aセメスターに 2 単位ずつ開講されます。

② 言語学概論

言語学の授業も必修になっています。水曜・木曜セットでの履修が必要です。2年生の A セメスターから取れるので、早めの履修をおすすめします。期末試験での評価です。

③ 国語学特殊講義

「特殊講義」とは、各先生の専門分野を題材としたテーマ講義のことで、よく「特講」と略されます。今年度は、本学の先生方による「日本語音韻史」「ノダ文と形式名詞述語文」「日本語諸方言の終助詞」といった講義のほか、3名の外部の先生方を招いて「方言から見る日本社会」「日本語の表記史とアクセント」「日本語文法史」といった講義が開かれています。

④ 国文学特殊講義

国文学の特殊講義も必修です。上代から近代まで、幅広い時代のさまざまな作品について詳しく学ぶことができます。

⑤ 国語学演習

演習は、先生の話を一方向的に聞くことの多い講義とは違い、学生の発表に基づいて、出席者同士で意見を交わすもので、通常研究室で行われます。発表の準備はかなり大変ですが、その中で身につける調査の方法や考え方が卒論作成にも直結します。出席はもちろん、積極的な発言が求められます。なお、各セメスターで最低1コマは必ず履修しなければなりません。

⑥ 卒業論文 or 特別演習

4年生になると卒論の作成がスタートします。テーマは自由。指導教員のもとで、1月の提出に向けて、今までの学びの集大成を作り上げていきます。また先生から与えられた課題を行う「特別演習」が、卒論の代わりとして別に用意されています。

⑦ 本学部又は他学部の単位

卒業までに文学部や他学部の授業の単位が 32 単位必要となります。本郷に進むとやや専門性は増しますが、駒場時代と同じように、自分の興味・関心に応じてさまざまな講義を受けることができます。国語学と関係の深い講義は他の専修課程にもあり、たとえば言語学専修の授業で日本語を対象とすることも多く、日本史学専修ではくずし字読解の授業が開かれています。また教養学部後期課程でも国語学関連の講義が開講されており、もちろんこの単位に含めることができるので、まだ駒場にいる2年のうちから取り始めてもよいかもしれません。ちなみに、この単位には教職科目や教育実習も含まれるので、中高の教員免許の取得を目指す方は自然に埋まると思います。

科目名	必要単位数
国語学概論	4
言語学概論	4
国語学特殊講義	10
国文学特殊講義	2
国語学演習	12
卒業論文 or 特別演習	12
本学部又は他学部の単位	32

時間割例

この時間割は、過去の開講科目を基に、テーマを決めた上で改めて履修を組んだ作例です。

時間割表中の色がついているマスは、卒業要件において、国語学専修としての必要単位に含まれる授業です。

・S セメスター

・いろはさん(3年)の例 古文を読むのが好きで、日本語の歴史に関心がある

	月	火	水	木	金
1					
2			国文学特殊講義Ⅶ 家持「歌日誌」の成立と展開 T先生	国文学特殊講義Ⅺ 山東京伝黄表紙・洒落本研究 S先生	国語学特殊講義Ⅷ 日本語方言の諸問題 K先生
3	国語学概論Ⅰ 日本語学概論 I先生		国語学特殊講義Ⅰ 漢文訓読の歴史 T先生		文化資源学特殊講義ⅩⅤ モノを見る、モノから考えるH H先生
4	中国思想文化学特殊講義Ⅳ 中国出土資料学講義 N先生	国語学特殊講義Ⅴ 漢字音から見た日本語音韻史(1) H先生	古文書学特殊講義Ⅰ 近世の古文書を読む M先生		
5	国語学演習Ⅰ 平安時代語研究(1) T先生	国語学演習Ⅴ 古代語彙研究(1) H先生			
	集中講義 日本書誌学概論 書誌学入門 長島先生ほか				

日本語の歴史に関係する授業を多く取った例です。た、将来古典作品を原文で読めるようになりたいと思い、崩し字読解の授業を2つ(水4と集中)取ることにしました。

・かんなさん(3年)の例 現代の日本語に興味がある。教員免許取得を検討中。

	月	火	水	木	金
1					
2	言語学特殊講義Ⅸ 日本語方言の音声 I先生				生徒指導・進路指導 O先生
3	国語学概論Ⅰ 日本語学概論 I先生		国文学特殊講義Ⅶ 総合日本文学・古典教育の試み W先生		国語学特殊講義Ⅲ テンス・アスペクト研究 I先生
4	国語学演習Ⅲ 副詞研究(1) I先生	言語の変異・変化Ⅰ 通時言語学入門 T先生			国語科教育法Ⅲ K先生
5	国語学演習Ⅰ 平安時代語研究(1) T先生		心理学特殊講義Ⅲ 学習・言語心理学 I先生		国文学特殊講義ⅩⅢ 近代文学の原稿研究 M先生
6		特別活動論 T先生			
	集中講義 教育原理 T先生				

教職科目を優先的に取る場合の一例です。火曜日は教職科目の為に駒場に行かなくては行けないので、4限に教養学部開講の科目も取ることにしました。空きコマにはサークルにも顔を出しています。木曜日は比較的授業が少ないので、全休を作っています。お勧めは月4の演習です。まず一見似た意味の副詞について先行研究と用例を集め、「データ収集・分析＝研究手法の基礎」を学びます。そして授業中は発表をもとに隠れた使い分けや意味を探り、議論が白熱することも。用例をにらみながら直感を言語化していくのはたいへんですが、ハマる人もきつというはず……！

・A セメスター

・まなさん(3年)の例 日本語をはじめとして、ことば全般に興味があり、新たな言語を学ぶのが好き

	月	火	水	木	金
1				比較言語学Ⅱ K先生	
2	国語学特殊講義Ⅹ 平安鎌倉時代の語彙と文体 Y先生	韓国朝鮮文化演習Ⅱ 現代韓国語の音声研究入門 F先生			韓国朝鮮語中級 I先生
3	国語学概論Ⅱ 古代語から近代語へ H先生		音声学Ⅱ U先生		国語学特殊講義Ⅳ モダリティ研究 I先生
4	国語学演習Ⅳ 副詞研究(2) I先生	国文学特殊講義Ⅱ 太宰治と近代文学史 A先生			
5		国語学演習Ⅵ 古代語彙研究(2) H先生	日本手話Ⅱ I先生ほか		言語学特殊講義Ⅺ アイヌ語 B先生
集中講義 国語学特殊講義Ⅹ 発話の文法 S先生					

いろんな言語を学ぶことで、日本語を相対的に捉えられる視点を持ちたい、と考える人の例です。様々な言語を学べるのは、文学部の強みの一つでもあります。

お勧めは火5の演習です。ある言葉の用例数がどれだけあるのかを作品ごとに示した『古典対照語い表』という本から、調べてみたい言葉を選び、実際に用例を集めて分析して、意味分類を考えるというもので、選んだ語によってはかなり根気のいる作業をしなければならないのですが、用例採取をするなかで「こんな言葉も目的語に取れるんだ！」とか、「こんな場面で使われるんだ！」とかさまざまな発見があって、調べ切った後は、高校のときの古文単語の丸暗記ではたどり着けないような深いレベルでの理解が得られます。発表中に、思いもよらなかった観点から質問が出ることもあって、月並みながら「ことばの奥深さ」というものを実感させられます。

・4年次の時間割について

4年次の時間割および生活ペースの核は、何と言っても卒業論文・特別演習です。4Sの初めに指導教官を選び、その先生と頻りに綿密に相談しながら、じっくりと取り組みます。人それぞれではあるものの、10コマ以上取る3年次に比べて、コマ数は半分強、といった場合が多いようです。

一文で表せば「自由度の増した時間割で、卒論・特別演習に加え、資格試験や院試の勉強・就活・教育実習・息抜きなど、各人のやりたいことを上手くこなしていく生活」という風になるのでしょうか。とはいえ、言うは易く、行方は難し。悩んだ時は迷わず周りを頼り、助け合ってください。

先生方との相談は勿論、同じ道を通ったかもしれない先輩に訊くもよし、同期と話すもよし。何となく研究室に来て、肩の荷が軽くなることもあるかもしれません。大変な4年次も一人でなければグッと歩みやすくなる、筈です。

先輩からのアドバイス

- 就活は皆さんの想像以上に膨大な情報で溢れています。時に友人などに頼り助け合うことが大切です。情報共有の観点だけでなく、就活生同士でしか理解し合えない悩みも多いので周囲の人との関わりが非常に重要になるのが受験勉強との大きな違いです。個人戦が得意という人も、ぜひ試しに色々な人に頼ってみてはいかがでしょうか。
- 企業を知っていく過程として、初めは合説や業界研究、次に企業主催のセミナーや社員との座談会、もっと深く知りたいときにOBOG訪問やインターンという捉え方で、企業を知るということは、面接などでも受け答えできる幅を広げることに繋がります、欠かせないステップです。
- まず自分で自分のことを理解しようとしなければ、面接官にも自分がどういう人間か分かってもらえず通用しないことがほとんど。色々な社員と会ってみると魅力的な人に会うことも多い。こういう人になりたい！というイメージから逆算するのもいいので、色々な観点から自己分析を怠らないのが大事。
- 外資系やベンチャーなどは選考開始が早い(就活ルールに縛られないから)ので、ここで面接やGDに慣れておくと本命で緊張せず受け答えすることができます。
- 国語研究室、文学部からはマスコミ・商社・銀行・コンサル・出版社・電機メーカー・IT・公務員など卒業生の進路は多岐にわたります。選択肢の幅が広過ぎて大変な上に、経済・法学部と比べると情報力では劣るので、積極的に色々な人と関わって情報を得ていくことが大切です。
- 変に自分を取り繕っても面接官にはバレるものだし、自分に不向きな会社に入ることが幸せとは言えません。不安もあるかもしれませんが、飾らない自分らしさを認めてくれる会社が見つかるはずなので、焦らず合う企業を探してみましょう。良い企業＝合う企業、というイメージで。内定はご縁です。
- 大学で勉強していること、は非常に頻繁に聞かれます。相手に伝わりやすく惹きつけやすい説明の仕方を用意しておくとかと助かります。日本語の話、となると食いつきのいい人が結構多い印象です。

研究室主催の主なイベント(※いずれも任意参加)

OB・OG 交流会

秋から冬頃に、研究室のOB・OGを招いて交流会を行っております。就活相談を含め、先輩方と交流できる貴重な機会となります。



国語研究室会

毎年七月に本郷で開催される、国語研究室内部向けの研究発表会です。当研究室の大学院生または卒業生の方々が、国語学の研究成果を発表する会で、学部生も出席して聞くことが可能です。学部生のうちから学会の雰囲気味わうことのできるよい機会となっております。一昨年度は「日本語命令形式の通時的研究」・「明治・大正期の日本語書き言葉における一人称代名詞の研究 ―近代雑誌コーパスを資料とした計量的分一」・「日本語音節構造史の研究」という発表がありました(昨年度は、コロナウィルス感染拡大の影響により中止)。

国語研究室 Q & A ～進学前編～

Q 国語学と国文学の違いは？

A 国語学は「日本語」を研究する分野で、国文学は「日本語の作品」を研究する分野です。

国語学専修と国文学専修は研究室同士の地理的な近さと文字列的な近さから混同されがちですが、**当然研究分野は異なります**。『源氏物語』を例にとると、国文学では『源氏物語』自体を研究対象として、成立論(作品の成立過程)、人物論(登場人物の作中の役割)、文化論(当時の歴史文化を通じた作品理解)などの観点から研究をします。それに対して、国語学では『源氏物語』の**文章を対象として**文法論(文法を対象とする研究)、文体論(文章や表現の類型化)などの観点から研究をしますが、国語学では一作品だけではなく同時代の複数の作品を対象とすることも多く、語誌(歴史的な変化の記述)のような観点からの研究もあります。また、国語学は「文章」を対象とした研究だけでなく、音韻論(言語音の機能や体系の研究)のような観点からの研究もあります。

Q 国語学と言語学の違いは？

A 国語学は日本語(古典語・現代語)に特化した研究をする分野です。

言語学専修では世界中の主要な言語はもちろん、地理的・時代的にありとあらゆる言語を科学的な研究対象とするため、当然日本語も研究対象となります。国語学専修の強みとしては、「日本語」を専門とする先生方が三人もいらっしゃるため、**より専門的に日本語を研究できる**点や、日本語に関する研究書や貴重書(古写本など)を多数所蔵している点が挙げられます。また、文献を重視した研究や、古典語はもちろん、現代語であっても歴史的背景をふまえる研究は国語学の特徴であるといえるでしょう。

Q 現代語の研究もできるの？

A **もちろん、現代語の研究もできます。**

現代の国語学は現代語に関する研究と古典語に関する研究とに等しく目を向けています。現代語研究には、データの分析や理論的な研究を行います。2021年度の講義では井島先生の「ノダ文と形式名詞述語文」が開講されます。また、現代標準語はもちろんのこと、**方言も研究対象**となります。2021年度の講義では小西先生の「日本語諸方言の終助詞」があり、また外部の先生をお招きして「方言」で読み解く日本語社会」の講義が開かれています。

Q 古文を読めないといけないの？

A **古文単語等を暗記する必要はありません。**

古文や漢文を調査する際にはそれらを読む必要がありますが、注釈書や古語辞典を用いて精読するため、大学入試の古典に求められるような能力が求められることはあまりありません。ただし、大学院に進学を希望する場合は、大学院入試において古文の現代語訳などの能力が求められます。

Q 駒場生の中に受講したほうが良い講義ってあるの？

A **「持ち出し専門科目」を履修すると、学部後期の単位として計算されます。**

2年生のAセメスターでは多くの専修で「持ち出し専門科目」が開講されますが、国語学専修も例外ではありません。

毎年度、Aセメスターに1コマ駒場で国語学特殊講義が開かれ、また、本郷でも数コマの国語学概論と国語学特殊講義が開かれており、これらが国語学開講の「持ち出し専門科目」となっています。また、必修科目の「言語学概論」はAセメスターのみの開講となっているため、早めに受講することをおすすめします。

国語研究室 Q & A ～進学後編～

Q 卒論を書かなければ卒業できないの？

A 卒業論文ではなく、特別演習を選ぶこともできます。

特別演習を選ぶ場合は、古写本や古版本の翻刻や、英語で書かれた研究書の翻訳を 2 点提出する必要があります。卒論を選ぶ場合は、3 年生の演習などを通して、テーマを考えておくといいいでしょう。先生方が熱心に相談にのってくださいます。ただし、**大学院進学又は教員志望の場合、基本的に卒論が求められる**ので、注意する必要があります。

Q 学部を卒業した後の進路は？

A 主に**民間企業、大学院、公務員、中高の教員**などが考えられます。

民間就職では、出版社や広告会社など専門を生かした職に就く方も多いですが、システム系や大手銀行、商社などに就職する方もいます。また、大学院(修士課程)を修了した後の進路としては、もちろん博士課程に進学して研究者を目指す方もいますが、民間企業や公務員、中高の教員という道に進む方も多くいます。

Q 文学部は民間就職で不利って本当？

A **就職の結果は不利にはなりません。**

文学部の就職では本人次第で業種・職種ほとんど関係なく就職できます。しかし、文学部の上下の繋がりは他学部ほど密でなく、また、文学部生は多種多様な就活を行うため、その過程で協力が得難く、就職の過程がやや厳しいものとなることがあります。そのため、国語研究室では「**OB・OG 交流会**」という卒業生との交流会が開催されており、社会人や就活の実態を伺う機会を設けています。

Q 大学院への進学率は？

A **毎年数名が院に進んでいます。**

大学院は、国語学専修と国文学専修が、日本語日本文学専門分野という1つの組織を構成しています。大学院への進学を考えている場合は、院生や先生方にあらかじめ相談してみるとよいでしょう。

Q 大学院って学部とどう違うの？

A 学部比べて拘束される時間は減ります。その分、自主的に研究を進める必要があります。

学部時代よりも必要な単位数は少ないので、「**授業**」という形で拘束される時間は減ります。しかし、当然研究の質と量を上げていかなければならず、また、自分自身でしっかりと計画を立てて研究を進めていくことが求められます。

Q 中高の国語教員に興味があるんですが……

A 中学と高校両方の免許を取得しておくのが理想的です。

国語科目と教職科目の単位がそれぞれ必要で、国語研究室では前者を必修単位の、後者を他学部の単位に含めることができるので、それほど大変ではありません。ただし、教職科目は量が多く、教育実習等は負担も大きいので、計画的に履修していく必要があります。また、教職科目には駒場開講の講義も多いので、駒場生の時から少しずつ履修しておくことをおすすめします。研究室に来る国語科教員の求人の中高一貫校からのものが多いので、**中学と高校両方の免許を取得しておくことが理想的**です。



ようこそ、国語研究室へ

国語研究室は、法文二号館の研究室棟三階の南東隅にあります。入口の扉には休講や課題などを通知する張り紙が掲示され、掲示板のような役割を果たしています。扉を開けて室内へと入ると、壁際には所狭しと本棚が並び、国語学の領域内のあらゆる分野の研究書や、古典作品の全集などの図書が揃っています。その蔵書数は膨大で、一部未整理の図書・資料等は床やソファの上に積み重ねられています。

研究室の窓からは総合図書館や育徳園を望むことができ、四季のうつろいを感じられます。研究室の最奥部の空間には大机が置かれていて、一部のゼミ形式の授業がここで行われるほか、授業時間外は研究室所属の学生が自由に自習するスペースとなっています。

国語研究室を訪れるのは基本的に研究室所属の学生ですが、国語研究室の蔵書を閲覧するときや、期末レポートの提出時などは、他専修の学生も国語研究室を訪れることとなります。

東京大学文学部 国語研究室

文学部人文学科日本語日本文学(国語学)専修課程

大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野